

西武バス「死角を視覚化プロジェクト」 春の全国交通安全運動に向けて、バスの“死角”を可視化した ラッピングバスが運行開始！

西武バス株式会社（本社：埼玉県所沢市、代表取締役社長：塚田正敏）は、2026年3月より事故防止を目的に、死角の位置を視覚的に示したラッピングバス7台を運行いたします。

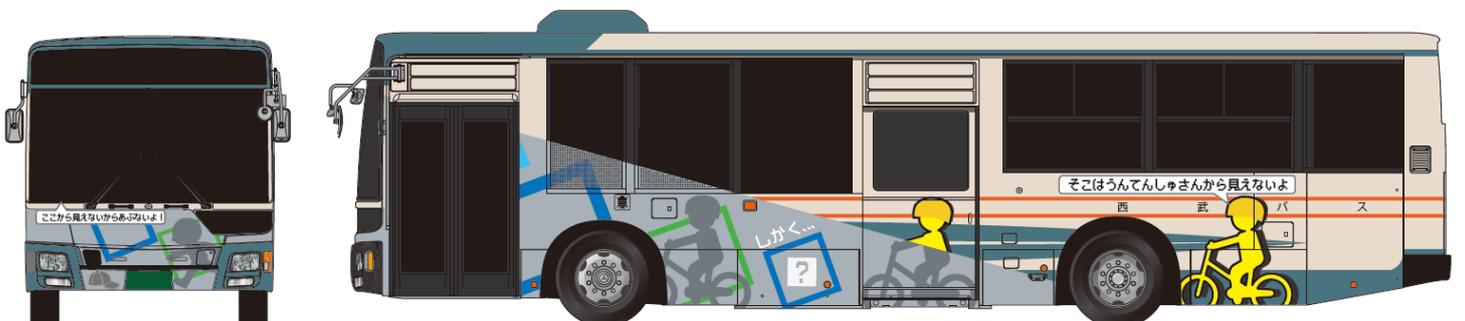
この取り組みは、バスの「死角」に着目し、見えにくい危険を“見える形”で伝える交通安全啓発の取り組みです。車両前面および左側面に実際に死角となる位置をデザインで可視化し、子どもにも分かりやすいイラスト表現を採用することで、死角に近づかない行動を直感的に理解できるよう工夫しています。

また、この車両は日々の路線バスとして運行するため、地域の皆さまが繰り返し目にすることで交通安全への意識向上を図ります。例えば、バスを見かけた親子が交通安全について話し合うきっかけとなるなど、日常生活の中で自然に交通安全を学ぶ機会の創出を目指しています。

当社ではこれまでも、交通安全教室の開催など、さまざまな事故防止の取り組みを実施してまいりました。しかし、教室形式の啓発活動には実施回数に限りがあることから、より多くの子どものたちや地域の皆さまに交通安全の大切さを伝える新たな方法を検討していました。特に4月は、通学に慣れていない新1年生の交通事故が増加する時期とされており、子どもをはじめとする歩行者の安全確保は「春の全国交通安全運動」においても重点テーマとなっています。こうした背景を踏まえ、地域の方々の目に留まりやすいラッピングデザインを施した車両を運行することで、バスの死角に対する理解を広め、交通事故の未然防止につなげてまいります。

今後も事故防止の取り組みを積極的に推進してまいります。

詳細は以下の通りです。



路線バスイメージ図

『死角ラッピングバス』概要

1. コンセプト

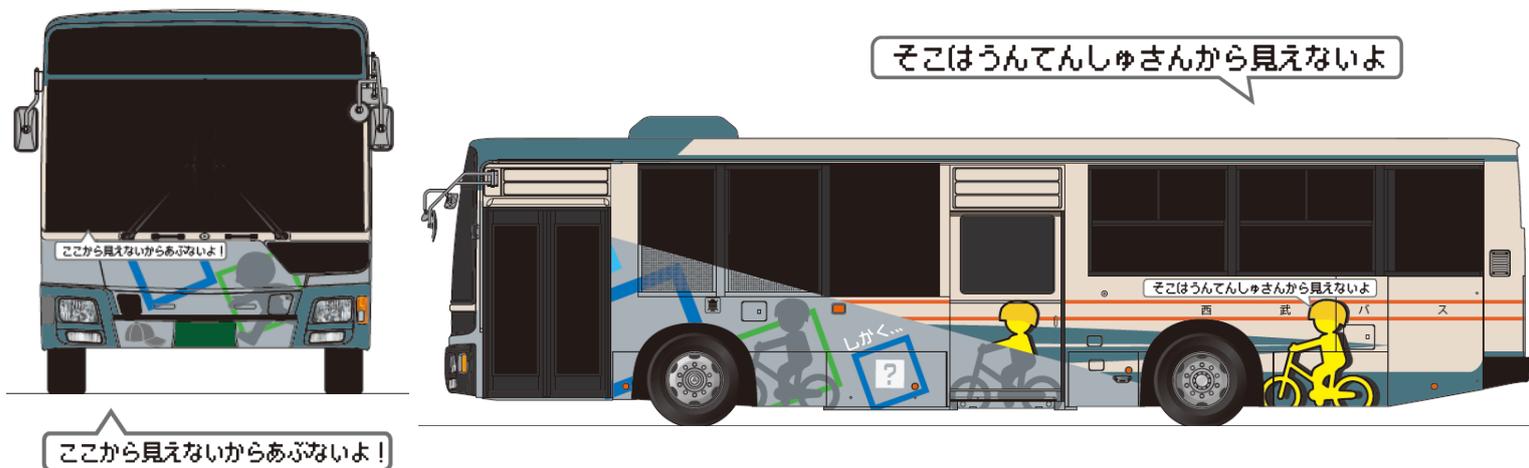
バスには運転席から見えにくい「死角」が存在します。本ラッピングバスは、その死角の位置を車両デザインで視覚的に示すことで、子どもを含む歩行者や自転車利用者がバスの特性を直感的に理解できるように工夫しました。日常的に地域を走る路線バスを通じて、見えにくい危険への理解を広げ、交通事故の未然防止につなげていきます。

2. デザイン

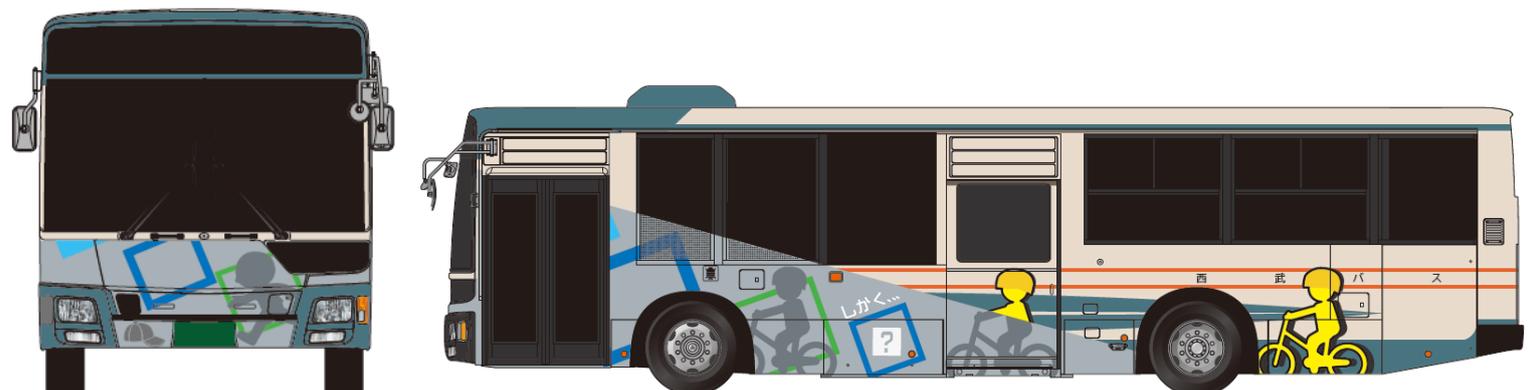
ラッピングバスは、柄としての「四角」とバスの「死角」を掛け合わせたデザインとなっており、吹き出しによるメッセージを加えたものと、イラストのみで表現したものの2種類を制作しています。吹き出しを入れたデザインでは、イラストのキャラクターが歩行者に語りかけるような表現とすることで、子どもにも分かりやすく交通安全のポイントを伝えています。

一方、吹き出しのないデザインでは、「しかく…？」という問いかけと、キャラクターの色が異なることへの疑問をきっかけに関心を引き、デザインの意図に気づいた際の納得感によって、バスの死角への理解を深めてもらうことを意図しています。

<吹き出し文字ありデザイン>



<吹き出し文字なしデザイン>





所沢営業所管内で走行する車両

3. 運行営業所

- 【東京】西武バス上石神井営業所、西武バス滝山営業所、西武バス小平営業所
- 【埼玉】西武バス新座営業所、西武バス所沢営業所、西武バス大宮営業所

4. 運行開始

2026年3月下旬～

5. デザイン制作

有限会社アドウィング（本社：東京都目黒区、代表取締役：畠耕一郎）

<http://www.addwing.co.jp/>

畠 浩之氏（プロダクトデザイナー）

有限会社アドウィング aix 事業室代表



■プロフィール

- 1976年 東京都生まれ 武蔵野美術大学造形学部卒業
- 2000年 トヨタ自動車株式会社入社
LEXUS、クラウン、アルファード等の
外形デザインにかかわる
- 2016年 有限会社アドウィング入社
- 2020年 西武バス 67年ぶりの路線バスデザイン変更 監修